

第4回静岡県スタートアップ支援戦略策定委員会 議事録

日時：令和5年8月17日（木）16：00～17：10

場所：静岡県庁別館20階第1会議室C

1 開 会

○司会（餅原産業革新局長）

ただいまから第4回静岡県スタートアップ支援戦略策定委員会を開催いたします。

私は経済産業部産業革新局長の餅原です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員会は1時間から1時間半程度を予定し、17時から17時半頃には終了をしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

議事に入る前でございますけれども、赤浦委員につきましては、本日オンラインでのご出席となります。他の皆様につきましては、座席表のとおりです。

それではこれから議事に入りたいと思います。これからの議事進行は木村委員長にお願いいたします。

2 戦略の最終案について

3 戦略を踏まえた取組について

○木村委員長

それでは次第に基づきまして、議事を進めていきたいと思っております。

まず最初に、次第2の戦略の最終案と、次第3の戦略を踏まえた取組について、事務局の方から一括してご説明をお願いしたいと思います。

全ての説明が終わった後、意見交換の時間がありますので、委員の皆様からそこでご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それでは事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

産業イノベーション推進課長の山家でございます。よろしくお願いいたします。

私の方から次第2の戦略の最終案と、次第3の戦略を踏まえた取組についてご説明いたします。

まず戦略の最終案の説明に入ります前に、前回の委員会におきましても委員の皆様から様々なご意見を頂戴いたしましたので、その対応案を説明させていただき、その後に戦略の最終案についてご説明をいたします。

それではお手元の資料1のファイルをお開きください。資料1は第3回策定委員会における意見と対応案です。こちらは第3回の委員会で出されました主な意見を前回と同様、骨子の必要な機能別に分類しまして、対応案を整理したものです。時間も限られておりますので主なもののみ説明させていただきます。

まず①起業家教育の三つ目の○につきましては、水口委員から、起業部の運営は継続性が重要といったご意見をいただきました。私共としましても将来起業家を生み出すための仕組み作りとして、この起業部が大きな役割を担っていると考えております。このため、継続

する仕組みの構築につきまして、戦略の施策2として地域部活動方式による起業部の創設を記載しておりますが、その例示に赤字の部分を追記させていただきました。資料3(戦略案)の22ページになります。施策2の赤字の部分ですが、将来的には起業部の卒業生に運営に関与してもらうなど、継続するための仕組みの構築や卒業生等が関わりを保つていくための機運醸成を図る、と追記させていただきました。

続きまして資料1に戻りまして、②新ビジネス創出支援の二つ目の○ですが、山本委員からビジネスプランコンテストとピッチイベントについて他との差別化を図ることができるか懸念、また、ピッチイベントは売りに直結する内容となるよう留意してほしいといったご意見をいただきました。これにつきましては行政課題に関連したテーマを設定して公共調達、また補助制度等の支援策との連携、連結を図る他、ビジネスプランコンテストにつきましては、県の先端産業プロジェクトとの接続を図っていき、コンテスト後の伴走支援に力を入れるなど他との差別化を図っていきたいと考えております。

続きまして、③ノウハウの提供につきましては、山本委員から大手企業がスタートアップに逆ピッチする機会があるとよいといったご意見がございました。私共としてもそうした取組が必要だと考えておりますので、施策11では各市町や企業から解決してほしい課題を募集し、その解決に繋がるアイデアをスタートアップから提案してもらい、マッチングに繋げていきたいと考えております。併せて一つ目の○の通り、TECH BEAT Shizuoka等で県内企業のスタートアップへの逆ピッチを実施していきたいと考えております。これにつきましても、資料3の施策9にTECH BEAT Shizuokaでのマッチング支援とありますが、ここに例示として記載をさせていただきました。内容的には、県内企業からスタートアップに対して解決してほしい課題や、スタートアップと共創したい内容を伝えるリバースピーチを実施、と追記をさせていただきました。

また資料1に戻りましてその他として、一つ目の○ですが、川路委員と赤浦委員から、KPIや数値目標を定めた方がよいのご意見をいただきました。こちらにつきましては、後ほど資料2を使って説明をさせていただきます。

最後に川路委員の方から、戦略を策定した後のフォローする仕組みが必要といったご意見がございました。これにつきましては、私共としてもスタートアップやそれを取り巻く社会状況や環境がめまぐるしく変化しておりますので、そうした状況変化に応じて県の施策を変えていく必要があると考えております。

また、今回策定する戦略の進捗状況などの評価も毎年度行っていく必要があると考えております。このため、可能でしたら来年度以降も年に1回程度委員の皆様方にお集まりいただきまして、戦略の進捗状況の報告ですとか、政策の見直しなどについて説明をしまして、評価やご意見をいただく場を設けさせていただければと思っております。この点につきましては、また事務方の皆様との調整が必要になると思っておりますので、改めてご相談させていただければと思っております。以上が資料1の説明になります。

続きまして、資料2「KPIの設定について」をご覧ください。こちらは川路委員と赤浦委員からご意見があったKPIと数値目標につきまして、他の自治体の事例などを参考に整理したものです。私共としてもこうした戦略を策定する場合、通常KPIを設定し、戦略に盛り込んだ施策が達成目標に繋がっているかどうか進捗状況の評価することとしておりますので、何らかのKPIを設定することが必要だと考えております。

資料2の2枚目、「参考:KPI設定の事例」をご覧ください。こちらは浜松市様も認定されているスタートアップ・エコシステム拠点都市につきましては、エコシステムの形成計画を策定することとされており、その中にここに記載したKPIが設定されております。KPIの事例としてはスタートアップの設立数ですとかユニコーンの創出数、またスタートアップの資金調達額その他、地域企業との協業数などがあります。目標値は、計画期間である2020年から2024年までの5年間です。

これを踏まえまして、KPIを設定する場合の案を示したのが1枚目になります。まず案1が県内で創出又は誘致するスタートアップの数、案2が県内で創出又は誘致するユニコーンの数、案3が県内企業等との協業等の創出件数としてあります。案4については後ほどご説明いたします。

それぞれの案ごとにKPIの考え方、長所、課題を記載してあります。案1のスタートアップの数は、目標値として明確でわかりやすい、また案2のユニコーンの数は、大きなインパクトがあるといった長所があります。また案3の県内企業等との協業の創出件数は、県内企業への寄与度を測るという点では、こうした目標値も必要だと考えております。ただ案1から案3のいずれも、一番右側の課題に記載している通り、現状値を把握できておらず、例えば「5年間でスタートアップの創出を倍増する」といっても、それが何社から何社になるかわからないということで、仮に設定したとしても説得力のある数値目標ではなくなってしまふ恐れがあります。このため案4として、県内スタートアップ数などの現状値を把握した後に設定するという案を設けました。

この戦略の施策27として、「県内スタートアップの把握と顔の見える関係の構築」を織り込んでおりますが、私どもとしても県内にスタートアップがどれぐらい存在しているか、またどのような課題・支援のニーズがあるかを、網羅的に把握できていない状況が大きな課題と考えており、まずその状況を把握することから始めたいと考え、こうした施策を盛り込みました。このため、県内のスタートアップの状況を網羅的に把握して、その状況を踏まえて県内のスタートアップの創出数、また県内企業等との協業数などのKPIを設定していくといった案が案4になります。課題としましては、一番右側ですけれども、今回の戦略策定に間に合わず策定時のインパクトを喪失としております。ただ、KPIを設定しないということではなくて、現状値を把握分析した上で改めて実態を踏まえたKPIを設定するという考え方です。案4の場合、スケジュール的には今年度中に現状値を把握した上で、KPIの案をいくつか作成しまして、また年度内に改めて委員の皆様からご意見を頂戴した上で今回決定する戦略に追加で盛り込んでいきたいと考えております。

委員の皆様からこの案を参考に、本日ご意見を頂戴できればと思っております。以上が資料2の説明になります。

続きまして資料3「静岡県スタートアップ支援戦略(案)」をご覧ください。前回の委員会でご提示した素案から修正した部分は、先ほどご説明しました赤字の箇所、起業部のところと、あとTECH BEAT Shizuokaのリバースピーチの部分を修正させていただきました。

その他には、最後から2枚目、38ページに、スタートアップの成長段階ごとに、今回の戦略で盛り込んだ支援策がどの部分に当てはまるかを視覚的に整理したものを追加しました。また最後の39ページに、策定委員会の皆様の委員名簿をつけさせていただいたところ

です。

以上が前回の素案から修正した部分になります。本日が戦略決定前の最後の委員会になりますので、本日この最終案について改めてご意見の方いただきまして、修正する必要がある部分につきましては、修正後再度委員の皆様にご確認いただいた上で戦略を決定しまして、来月公表してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

以上が次第2の説明になります。

続きまして次第3の「戦略を踏まえた取組」につきましてご説明いたします。

資料4「スタートアップ支援戦略を踏まえた取組」をご覧ください。こちらの資料は、この戦略を策定した後戦略に盛り込んだ施策を今後どのように取り組んでいくのかについて説明したものです。

まず1は、この戦略に盛り込んだ施策方針と重点取組です。これを踏まえて今年度と来年度、どのように取組を進めていくのか、その全体像が2の「戦略を踏まえた取組」になります。考え方としては、戦略において重点取組に位置づけられた施策のうち、早急に実施する必要があるものは令和5年度から実施し、来年度以降の本格的な支援策の展開に繋げていきたいと思っております。

まず重点取組の一つであります結びつける施策につきましては、今年度はスタートアップを下支えする仕組みとして「ワンストップ相談窓口の設置」と、スタートアップ関係者による「ネットワークの構築」を進めていきます。また来年度は、今年度に構築するネットワーク等を活用して首都圏等のスタートアップと県内企業や自治体、県の先端産業プロジェクト等をマッチングする事業を本格的に展開していきたいと考えております。

また、もう一つの重点取組の成功事例の創出につきましては、今年度は県内からロールモデルとなる成功事例を創出するため、大きく成長する有望なスタートアップを選出するビジネスプランコンテストを開催したいと思っております。来年度は、先述したスタートアップを大きな成長に繋げるための伴走支援を実施したいと考えております。

2ページ目は来年度以降の取組ですが、施策方針の一つの「県外からスタートアップを呼び込む施策」では、県内全域を「まるごと実証フィールド」として県内にある様々な地域資源を活用して首都圏等のスタートアップとのマッチングを創出していきたいと考えております。

もう一つの施策方針の「県内で新たなスタートアップを創出・育成する施策」につきましては、起業部などの次世代のスタートアップとなりうる人材を育成するほか、戦略に盛り込んでありますスタートアップの特性や成長ステージに応じた様々な支援策を展開していきたいと考えております。

具体的な取組につきましては4に記載しましたとおり、一番下の《対応》で、まずは首都圏等のスタートアップに向けた積極的な情報発信を図ることとあわせて、県内企業、市町、県が持つ課題解決へのチャレンジを促す取組ということで、3ページの方に記載した①と②の事業に取り組んでいきたいと思っております。

①はこれまでも説明をしてきました県内市町の首長に向けたピッチイベントの開催ということで、既に西部地域で行われている取組を県内の東部、中部地域にも展開し、スタートアップと県内自治体とのマッチングを進めていきたいと考えております。②は県内企業、ま

た県の先端産業等の取組とスタートアップとの共創を支援するため県内企業や県の各所属からスタートアップと共創したい内容を募集しまして、スタートアップに提示いたします。共創に意欲のあるスタートアップから提案があったプロジェクトのうち、優れたものを選定し、共創の実現に向けた伴走支援、プログラムの方を実施していきたいと考えております。また選定した以外のスタートアップにつきましても、県内企業や県の担当所属とのマッチングを行ってまいります。

こうした取組のイメージが3ページ目の下半分の「静岡県がまるごと実証フィールド」の通り、静岡県が抱える課題の解決や地域資源を活用した取組を、県外のスタートアップに働きかけ、共創に結びつけて、県内にスタートアップを呼び込んでいきたいと考えております。

次に4ページがもう一つの県内で新たなスタートアップを創出・育成する取組です。次世代を担う人材の育成の取組の中で、起業部の創設が大きな柱になると考えております。イメージはこの図の通り、学校の枠を超えた同年代の若者が参加する広域的な企業を創設しまして、地域課題を事業プランに繋げる実践的なプログラム等を実施していきたいと考えております。また来年度はこれ以外にも、(2)に記載してあるような戦略に盛り込んである様々な支援策を実施していきたいと考えております。

5ページ目が、今年度当初予算で盛り込んである施策、また今年度中に実施する予定の施策、また来年度以降実施する予定の施策ごと、実施する事業を分けて整理したものです。

以上が資料4の説明になりますが、今ご説明させていただいた内容はあくまでも事務局の案でございます。実際は今後財政当局と予算調整をした上で、いつからどのような内容で実施するかが決まりますので、この案通りにはならない可能性があることをご承知いただければと思います。

本日は委員の皆様から、先ほどご説明しました戦略の最終案、主にKPIの設定についてや、資料4の戦略を踏まえた取組として、来年度「静岡県がまるごと実証フィールド」の実施、また「起業部の創設」などの施策を展開していくことなどにつきましてご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上が事務局からの説明になります。

4 意見交換

○木村委員長

はい、ありがとうございました。

以上事務局の方からご説明いただきました。それでは意見交換に入っていきたいと思いますが、先ほどの説明の中にあつたとおり、特にKPIの設定や戦略を踏まえた取組について、委員の皆さんのご意見をお伺いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは今日は山本委員から、KPIの点からお願いします。

○山本委員

なんとなく案4からなのかなと思っておりますが、KPIの案1と案2とも、スタートアップ・ユニコーンの創出と誘致の値を分けてカウントした方がいいのではないかという気がします。

○川路委員

川路でございます。検討いただきありがとうございます。前回私の方から KPI を設定した方がいいのではとさせていただきましたが、その真意としては、この戦略が絵に描いた餅にならないようにしっかりと目標を持ってやっていくため、策定した後にそれぞれフォローするためにご提案させていただきました。そういった意味では、現状をまだ把握できてないということなので、そこはしっかりと把握していただき、明確に目標を立てていただくのが適切かと思っております。私としては案 4 でしっかりと現状を把握していただく形がいいかと思っております。

一方で、年度内にとという説明でしたが、そこまで時間かかるかなという印象はありました。それぞれのやり方はあると思いますが、感触的にはそんなイメージです。以上です。

○木村委員長

中村委員よろしく申し上げます。

○中村委員

前回所用で出席できず申し訳ございませんでした。本当に短期間にかなり盛りだくさんの施策を具体化させていただき、本当にありがたい、頭が下がる思いでおります。この KPI に関して申し上げますと、スタートアップをどうやって数えるか、ユニコーンとは何かといったところを明確にしないといけない。もしこういうものを載せるのであれば、その定義をしっかりとしておく必要があると思います。いきなり GAF A みたいなものが急にできるわけではないと思いますので、そこまでのレベルを求めるのであればこの期間の中ではゼロになってしまいますし、こういうものについてはユニコーンだ、こういうものはスタートアップだ、通常の創業起業の事業者とは違う、という定義を明確にする必要があると思います。それと多分、1年できるもの、3年でできるもの、5年でできるもの、10年でできるものなどあると思いますので、対象期間に応じた KPI が必要なのかなと。

また KPI とは別に、アウトプットとアウトカムのようなものを意識した方がいいのかなと思いましたが、どれか 1 個にするということではなくて複合的にしてもいいでしょうし、「KPI は評価 A や B だけど、結果として人口は増えていない」みたいなところはよくあると思います。なので、当初は一旦設定して一定期間はそれに基づいてやっても、どこかで補正したり、実態に合わせていくことがあってもいいと思いますので、そこは柔軟に考えられたらいいと思います。以上です。

○木村委員長

橋本委員よろしく申し上げます。

○橋本委員

橋本です。どの KPI の案にするは、事務局としてできるものを選ぶということでもいいと思います。ただ、KPI に関しては、私論としては気をつけなければならない部分があると思っています。KPI は何かの最終的な目標を達成するためのプロセス目標のようなものだと思うのですが、それが自己目的化してしまうとか、本来やらなければならない目標からかえって

遠ざかってしまうとか、そういう懸念があり、注意する必要があると思います。そのための方策としては、二つあります。

一つは、先ほど中村委員からありましたが、KPI は一度定めても、途中で変えてもいいと思います。だから、やってみたけれど目的に向けて違うと思ったら、例えば別のものに差し替える、あるいは数字を変えてみるとか、柔軟にしたらいいいと思います。新しいことをやるので、結局どういう目標にしたらいいかの正解はないと思いますし、世の中もどんどん変わってくるので、あのときこう定めたけれど、2年後3年後に見たら違っている、ということがあると思います。変えるということも構わないという前提で、KPI を定めるというのが一つあります。

あともう一つは、KPI を定めるときには、最終的に目指している目標を、定性的な文章でもいいので同時に示し、そういった最終目標を達成するための一つ、またはいくつかのプロセスの例だということをお知らせしておくということです。この二つをやっていけば、KPI 自体が自己目的化し、最終目標と違うところになってしまうということ避けられると思います。一つのやり方として、工夫していただければと思います。以上です。

○木村委員長

ありがとうございます。それでは、水口委員お願いいたします。

○水口委員

教育委員会の水口でございます。指標設定の考え方ですが、基本的にこの事業を運営するときに競争的資金を獲得しながらやっていくことも想定されるであろうと。そうしますと、競争的資金において、どのような指標を設定し、どのような数値を目標として定めれば競争的資金がより獲得できるかということも視野に入れながら指標の選定をしていくことも、必要ではないかと思えます。その競争的資金というのが、産業の部分でやるのか、それとも別のところかわかりませんが、地方創生であったり産業振興であったり、スタートアップそのものではないかと思えますので、それを少し睨みながら、指標設定を考えたらどうかと思っています。以上でございます。

○木村委員長

ありがとうございます。それでは赤浦委員よろしく申し上げます。

○赤浦委員

ありがとうございます。まず KPI の件に関してのみ、コメントさせていただきます。

国の方では、ユニコーンを現状の 10 社から 5 年で 10 倍、100 社という KPI を出しているわけですが、それに準ずるような形で行うのが正しいのではないかと思えます。例えばユニコーンというと、もう今 (1 ドル) 145 円とかになり、1450 億円の時価総額以上という形になりますが、それでは現実的ではないかもしれないので、例えば、2000 年以降設立の会社で時価総額 100 億円以上の会社を、今現状何社で、それを 5 年で何社にするというような目標を定めるのが良いのではないかと。現状の調査に関しては既にスタートアップ DB 等ございますので、この時価総額を基準にすれば、すぐにわかるかなと思えますので、早急に具

体的な KPI を定めるのが良いのではないかと思います。以上です。

○木村委員長

はい、ありがとうございました。

まず皆さんから、KPI の部分についてのご意見を一通りお伺いしたと思います。基本的に皆さん同じご意見だったと思います。まず、案 4 になるのでしょうか。基本的にはまずきっちり数字を把握した上で KPI を設定するということだと思います。赤浦委員からかなり詳細な内容まで出ましたが、基本的には多分皆さんからのご意見は案 4 ですね。

○赤浦委員

1 点よろしいですか。私は明確に意見が違いますので、議事録に残していただきたいです。案 4 は正しくないのではないかという意見です。

○木村委員長

わかりました。ただ、今の時点で、基本的には事務局では数字は把握しきれてない部分があるわけです。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

今赤浦委員からお話のありましたスタートアップ DB、例えば INITIAL などいくつか民間会社が調べているものがあり、スタートアップの数が出ておりますが、必ずしもその数が正しいかというところではなくて、そういった DB では漏れているものがあると思います。あと私共として考えておりますのは、スタートアップ支援拠点が把握しているスタートアップなども含めること、あと先ほどお話が出ましたスタートアップの定義をどうするかというところも大きな問題かなと思っております。そういったものも踏まえて、静岡県内でのスタートアップの数というものを整理したいと考えているところでございます。

○赤浦委員

よろしいですか。

○木村委員長

はいどうぞ。

○赤浦委員

一応国の方にも確認をしていただいて、国と同じ基準でやればいいと思います。現状の国の方も今あるスタートアップ DB 等を活用して出しているというふうに思います。それと基準については、「何年設立以降」というような形をとれば、明確に設定することが可能だと考えます。以上です。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

ありがとうございました。また国の方の基準を踏まえて整理させていただければと思い

ます。

○木村委員長

ありがとうございます。赤浦委員のご意見は案4ではありませんが、ただ、いずれにしても、今県の考えている、早々にスタートアップの定義、あるいはそのKPIの内容を把握した上で定めていくということによろしいでしょうか。赤浦委員、それによろしいですか。

○赤浦委員

はい。

その早急にというのが、具体的にいつまでにということも明確にした方がいいと思います。国の方ではもう既に発表している数字でもあり、追随するということであれば、すぐに発表すべきKPIではないかなと思います。調べればすぐわかることだと思いますので、例えば今月中にとか来月中にとか、基準を早急に定めるべきではないかと考えます。以上です。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

はい、ありがとうございます。なるべく早くという意味だと思います。KPIの中に、スタートアップの数以外にも、企業との協業数というのも考えており、その場合に実際に協業をしている数につきましては、そういったスタートアップに聞かないとわからない部分がありましたので、多少時間がかかると考えていたのですが、なるべく早いうちにそれも踏まえてKPIを設定するようしたいと思っております。

○木村委員長

はい。ありがとうございます。

そのKPIの数字のこともそうですが、あともう一つ委員の皆さんから出ていたのは、最終的なそのゴールの部分です。KPIではなく、本当に目指してるゴールが何なのかというお話もありました。それがKGIのようなものなのか、あるいはそうでない定性的なものがあるか、いずれにせよそれがあつた上でKPIがあると意識した方がいいということだと思います。よろしくをお願いします。

今はKPIについてですけども、皆さんの方からはよろしいでしょうか。

それでは、今皆さんから一通りいただいた意見はKPIに関しての部分でしたが、その他、特に戦略を踏まえた取組に関して、皆さんの方からご意見を聞かせていただけたらと思います。今度は橋本委員からよろしくをお願いします。

○橋本委員

私からは、戦略案と取組のところ、2点ほど申し上げます。

1点目は、まるごと実証実験の場というのはすごくいい、静岡県独自の部分があると思います。その中で一つ気になるのは、首都圏からのアクセスにも恵まれているとある点で、私は西部地域に住んでるからかもしれませんが、何か違和感があります。首都圏に近いのであれば、北関東、長野、山梨だってそうだし、静岡県の独自の部分というのは、首都圏と近畿圏と両方に近い点だと思います。東日本的な要素、あるいは京都とか大阪とか西日本

的なところと、両方から均等な距離にあるのが静岡県の大きな特徴ではないかと思っています。かつ、例えば名古屋のように、独自の文化ができてというわけでもないで、ある意味日本の縮図的に、東日本的・西日本的なものを両方とも持てる場所だと思います。私は東京で生まれ育ち、6年前に浜松に引っ越してきて、静岡県はそういうところなんだなと、面白いなと感じています。だから、首都圏に近い点は静岡県の独自性を本当に表しているわけではないと。

2点目は、取組の中で、大企業からの逆ピッチは結構有効だと思っています。私が以前、都市銀行に勤めていたときにはよくやっていました。銀行はいろいろなビジネスマッチングをやるのですが、特に大企業に声掛けして、例えばそこから課題を10個ぐらい出してもらって、これに関してチャレンジ、アプローチしていきたい会社を全国の支店から集めてマッチングするのをよくやっていました。これは非常にニーズがあり、喜ばれる施策です。ただこれは広い範囲でやった方がよく、あまり小さい地域でやると、有効なものが出てこない、大企業の方もせっかく課題を出したのに誰も出てこなかった、となってしまうので、県で取り組んでいただくというのはすごくいい、有効になると感じました。以上2点です。

○木村委員長

ありがとうございます。それでは次、中村委員よろしくお願いします。

○中村委員

これは戦略策定ですのでこういった形なのだと思いますが、施策が30いくつある中で、これらを具体的に実行に移して成果を上げていくためには、プレイヤーをしっかりと決めて、どうやって実践していくのかを考えないと実効性が上がらないのかなと思っています。資料4に記載の通り、関係者が連携して協調してオール静岡県で結びつける施策に取り組むということになりますと、関係者は誰なんですかというのを、その施策ごとに具体的にする必要はあるのかなと。銀行協会、信用金庫協会、金融機関もそうですし、様々な支援団体ですとか、シンクタンク、ベンチャーキャピタルもあるでしょうし、起業部では学校、大学・高校・中学もそうですし、もっと言うと、NPO法人とか、そういうところを巻き込まなければいけないですが、かなり範囲が広いと思います。そして一つ一つの施策に対してどんなプラットフォームを作って、そこにどんな方々に参画してもらうのか、施策ごとに早めに決めてやっていかないと、実効性が危ぶまれてしまうかなと思われれます。

もう一点は、当たり前ですが、スタートアップとの革新を起こしていくような動きについては、必ずデジタル・DXというのが底流になければならないと思っています。一方で最近では生成AIなども革命的にいろいろなものを変えてしまうと想定されている中で、これらをどのように繋げていくのかを考えた方がいいと思っています。以上2点です。

○木村委員長

ありがとうございます。川路委員よろしくお願いします。

○川路委員

まとめていただいてありがとうございます。前任の加藤からも申し上げておりますけど

も、それぞれの市町でも取組にはかなり濃淡あると思います。それぞれやっている取組について、頑張っているところには後押ししてほしいと思っておりますし、そこまでできていないところは底上げしてほしいと思っています。今後政策を考えていく中で、ぜひとも意識していただきたいです。具体的に申し上げますと、例えばスタートアップの実証実験を市内でサポートするという取組をやっており、実証実験をする中で施設ごとに許可等をいろいろ取っていくわけです。市の管理する施設等であれば、市の中で完結しますが、中には県道など県の所管の部分は多くあります。そういったところで県が、後押ししてくれると、それぞれの市町の取組が促されるのではないかと考えておりますので、一例ですが、意識していただきたいと考えております。

あと、起業部でイメージするのはどういうものなのかという点ですが、静岡市に拠点を作ることなのではないでしょうか。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

資料4の起業部の図の上にかかせていただきましたが、令和6年度はモデル的に県内で1箇所ということで、まだどこかは決めておりません。最終的には県内複数地域、東部・中部・西部という形で考えております。どこの地域でやるかというのはまたこれから詰めていくこととなりますが、既に起業部的なことをやっているようなところがあれば、そこを下地にやっていけばいいかなと考えています。

○川路委員

わかりました、ありがとうございます。浜松市でも今年度から、起業部という形ではありませんが、学生たちを募ってコミュニティを作る事業を始めました。ようやくキックオフしたばかりなので、これがどうなるか、またこれから詰めていくところもありますが、こういった個別の取組とうまく連携して、後押ししていただけると非常にありがたいと思っております。以上です。

○木村委員長

ありがとうございました。次は山本委員、よろしくお願いします。

○山本委員

はい。まず、中村さんがおっしゃっていたスタートアップの定義のところ、事前の説明ときに私も申し上げたのですが、資料3の11ページにある「本戦略におけるスタートアップの定義」をそのままいろいろところで適用すると、スタートアップが全然いないとか、コンテストやっても集まらないみたいな状況が容易に想像できてしまうので、戦略上のスタートアップの定義はこれでいいのかもしれませんが、一つ一つの施策の中での定義は柔軟に変えていく必要性がありそうだなと感じております。

それから、確か前回の委員会ときに赤浦委員がご指摘されたと思うのですが、静岡県としての特徴がどこにあるのかといったご指摘があったと思います。実は私、この後9月に福岡でリバースピーチに参加しまして、10月に沖縄でIPOセミナーで講師をやる予定があり、11月に私の静岡県のベンチャー仲間10社程度を連れて、福岡でIPO志向企業たちの交流会

をやる予定でいます。その準備段階の会議が何回もあるのですが、そこで「山本さんよく九州とか沖縄来てくれるけど、我々が静岡に行く動機ないんだよね」と言われまして、そのときに私、いや静岡こないいいところあるよとか、スタートアップ支援あるよとか、正直言えなかったんです。それは飲み会の席だったのですが、結構悔しい思いをしています。戦略の中で特に静岡県として打ち出していくところに「先端産業」の言葉が入っていると思いますが、そこをもうちょっと明確にはっきりと打ち出していただけると、すごく静岡の特徴がわかりやすく、静岡県のこういうところがいいんだよ、こういう産業を中心にやっていくんだよみたいなことを言えるようになるかなと思っているので、先端産業のところを包括して何か具体的にさせていただけると嬉しいと思いました。

それから KPI の方に戻って、もし増やしていいのであれば、川路さんもおっしゃった、起業部のところの KPI を何か一つ設定してもいいのではないかと思います。他のところの KPI ということで一覧表がありましたけれども、起業部に相当するような KPI はどこも打ち出していないので、静岡県の特徴の一つとして、起業部のところで KPI を打ち出してみるのもいいのではないかと思います。以上です。

○木村委員長

ありがとうございます。それでは、水口委員よろしいでしょうか。

○水口委員

オール静岡でとやったときに、それぞれがどういう役割を担っていただけるのか、私どもがやるべき方、それとそれぞれのところがどういうことができるかを、早めにヒアリングをしたりしながらまとめていくことが必要だと思います。それと、やはり実際にスタートアップ戦略を運用するにはそれぞれの予算が必要になってくると思いますので、フェーズ1のところでは、競争的資金をしっかりと取りに行くよう頑張ってください、それも含めて、何ができるのか、どういう予算がいくのかということをしかりとやっていただくこと。やはり、継続的な競争的資金の獲得が必要になると思いますので、そういうことを念頭に置きながら進めていくことが必要だと思います。

あと、最終的には、自走ということではないにしても、ある程度しっかりと収益を上げながら、例えば私達が応援した企業が大きくなっていただいて、それが還元していただくような仕組みができれば一番いいとは思いますが、そういうことができないまでも、少し念頭に置きながら取り上げていければいいのかなという感じがします。以上でございます。

○木村委員長

ありがとうございました。それでは、赤浦委員よろしくお願いします。

○赤浦委員

総じて言いますと、具体性がちょっと乏しいかなというふうに感じております。

例えば、資料4でみた場合に、伴走支援という言葉がございますけれども、その伴走支援とは具体的には何なのかということですか、資料4の2ページ目に行ったときに、「スタートアップの特性や成長ステージに応じた様々な支援策」としたうえで具体的な取組を

書いてありますが、その具体的な取組というのは何なのかということ、読んだとき、今一つ具体的に理解しがたいかなと思います。

また、具体的な取組について、資料4の4ページの「様々な支援策を展開」というところにいくつかあり、スタートアップを支援できる専門人材を育成するとありますがどうやって育成するのかとか、そういった細かいところを見ていったときに、もう少し突っ込んで具体性のある形まで踏み込めないのかなと思います。

あと、先ほど山本委員の方からお話ございましたけれども、静岡県の強みというところで、私自身静岡県には非常に強い期待があります。というのも、先般も申し上げましたが、世界を代表するホンダ・トヨタ・ヤマハ・スズキや浜ホト、というような会社を生み出したエリアでもあり、日本におけるものづくりのサプライチェーンをいまだに強く持ったエリアだと思いますし、また、資料にもありますが東京と名古屋の中間に位置する非常に良い立地でもあるということを見ると、もう少し具体的に突っ込んだ成長戦略というところに踏み込めないのかなと思いました。以上です。

○木村委員長

ありがとうございます。

今、取組について、一通り皆さんからご意見いただきました。まだしばらく時間がありますので、さらに皆さんから意見を言いたいということがあれば、もう少し議論していただければと思います。

例えば、特徴があるという赤浦委員のご意見で言うと、静大発のスタートアップは50社ぐらいですが、その中から出口に到達したという、やはり光なんですよ。実際その光の分野で言うと、例えば凸版にM&Aされた会社などいろいろあり、なんだかんだいってそこは強いです。ただそれもちよっとやって強くなったのではなく、100年前のテレビの発明からずっとやってきて今があるんです。なので、そういったものが、浜松で言うと一つの特徴なのかもしれないとは思いますが、なかなか簡単にはいかないと思いますが、静岡大学のKPIというのが一応あり、今、第4次の中期計画の中で、30社作るとしており、2030年までに100社という数字をあげています。結構厳しい数字ですが、そういう目標値を持ってやっているのが今の静大です。基本的にはやはり光関係は強いというのがあると思います。皆さんの方からさらに何かご意見あればと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（山家産業イノベーション推進課長）

先ほど委員の皆様から様々なご意見頂戴しまして、事務局の方から少しお話をさせていただきたいと思います。

まず、橋本委員の方からの大企業からの逆ピッチが非常に良いという話で、私共としても企業の方からの共創したいテーマを応募した上で、スタートアップに繋げるマッチングなどを今後検討していきたいと思っております。

あと、中村委員の方から具体的に実行に移していく際のプレイヤーを定めた方がいいというような話がありました。この戦略にもスタートアップ支援関係者のネットワークを構築するということで盛り込ませていただきましたので、そういったネットワークを活用して、どういった方に実際に関与をしてもらうかを、私共としても整理していきたいと思っ

おります。

川路委員から、例えば実施していく際に県の許可が必要になる部分があり、そういったところを後押ししてほしいというようなご意見がございました。そこは私共としても県全体が実証フィールドと言っておりますので、関係部署ではできるだけスタートアップが進出しやすいような配慮ができればと思っております。

あと山本委員の方からの、先端産業を具体的にフォーカスした方がいいという話がございます。確かに、この戦略の中で先端産業が何かというのがわからない部分がありますので、追記・明記した方がいいと思いました。その部分は修正をさせていただきたいと思えます。あと、KPIについて起業部に相当するものがあつた方がいいということでした。貴重なご意見をありがとうございます。起業部のKPIの方も設定する方向で検討させていただければと思えます。

水口委員の方から、どうやって自走していくかというお話がございましたけれども、県としてもエコシステム、循環ができればと思っております。どうやって収益を上げていくかはなかなか難しいと思えますけれども、そういった循環ができるような体制を作っていければと思っております。

赤浦委員の方からは、資料4についてご指摘をいただいて具体性に欠けるというお話がございました。資料4の方には記載をできませんでしたが、例えば専門人材の育成につきましては、この戦略の中でも例示ということで、いくつか書かせていただいております。この例示を、できれば来年度以降具体的に実施していきたいと思っております。伴走支援につきましても具体的には書けなかったのですが、例えば、そういったネットワークに参加した方々、企業ですとか金融機関といった方々が、スタートアップの創出支援チームのような形で伴走支援をしたり、あとは具体的には委託という形でプログラムを作って、コンサル等を活用して支援していくことも検討していきたいと思っております。以上でございます。

○木村委員長

それでは皆さんいかがでしょうか。どうぞ。

○山本委員

自分で起業して、自治体にもいろいろなことを働きかけてきた経験の中から言うと、割と都道府県単体だと、すごく物足りなさを感じてしまうことが多かったです。そのときに、例えば静岡県は他の都道府県の市町に対して働きかけをしてくれるとか、何かそのぐらいまでやってもらえると、すごく嬉しいなと思っております。例えば少し前にオープンデータで、県のデータを使ってくれとか、県内の市町村のデータを使ってくれと僕のところにすごく来たのですが、静岡県内だけとか特定の市区町村レベルのデータだけだと、まったくもって物足りないです。少なくとも日本国内でやる上では、日本国内全体のデータが同じように扱えないと意味がないとか、マネタイズしきれないとか、すごく物足りなくなってしまうんです。それを実証実験的にも県だけのデータでやるとすごく物足りず、果たして本当に効果があるのかよく見えない、という感じになってしまうので、県より大きい単位への働きかけを何か協力してくれるみたいなものを具体的に書いてもらえると、県内のスタートアップたちは結構燃えるかなという気がします。すみません、私の経験からです。

○木村委員長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

先ほどの中村委員のご意見で、いわゆる取組の内容は非常に充実して多いが、本当にこれだけやれるのかというご意見と、赤浦委員からのそれぞれの具体性のご意見。それはある意味繋がってるような問題だと感じてます。一つ一つ挙げていることの具体的な中身についてしっかり決めていただく必要がある。誰がそのプレーヤーとなってやっていくのかが決められて本当の具体性だと思うので、その辺の部分がちゃんと決定されていくことが必要ではないか、というのが皆さんのご意見だと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。はい。

本日皆さんからいただいたご意見を踏まえて、事務局の皆さんで戦略の最終案を修正をいただき、委員の皆さんにご確認いただいた上で決定していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、本日のご意見を踏まえて修正を反映していただき、事務局の方で戦略の決定・公表の手続きをお願いします。

以上で、進行を事務局の方にお戻ししたいと思います。よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

5 閉 会

○司会（餅原産業革新局長）

本日は長時間にわたり、また多岐にわたるご意見を頂戴いたしまして本当にありがとうございました。

正直私共も書き切れていない部分がたくさんあり、行政にありがちな、ここまでしか書けないというところで止まっている部分もごありますが、皆様からいただいたご意見は、本当に重要なことを言っていたらと思います。

今回策定後、当然見直しながら、また作り変えてやっていく予定でありますし、先ほど山家からも申し上げました通り、この戦略に基づいて今年度すぐにでも新たな活動を始めていきたいとも考えておりますので、そういったところでもまたご意見をいただければと思います。本当にありがとうございました。できる限り皆様方のご意見を取り入れて、充実したものを作っていただければと考えております。全4回にわたる委員会にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

今申し上げた通りですが、委員長からもそういったご意見をいただいておりますので、事務局の方で、また戦略を見直しながら、皆様方にもご確認をいただく手続きを進めてまいります。戦略の公表は9月を予定しております。詳細につきましては、追ってご連絡をさせていただきます。

ここで田中部長代理から、委員の皆様へご挨拶を申し上げます。

○田中経済産業部長代理

今日も長時間にわたり、皆様方に貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

5月に皆様方にお集まりいただきまして、初めてお会いさせていただいた方々もいらっし

やいますが、早いもので4ヶ月、月日の経つのが早いと感じます。冒頭すごく記憶に残っているのが、第1回目の時に木村委員長から意見交換の中で、起業するってすごいワクワクする、ワクワク感を持ってやりたい、というような類のお話だったと思います。それがすごく印象に残ってしまっていて、確かにそうだなと思っています。7月にはTECH BEAT Shizuokaというスタートアップのイベントがあり、そこに102のスタートアップ企業さんが見えになりました。来場者も過去最高で5400人を超えるような方々がいらっしやって、私もいろいろなスタートアップさんのブースを見させてもらったのですが、反省すべきところは、スタートアップは何か製造業の一部かなという意識があったことです。実際にいろいろなスタートアップさんにお会いすると、わさびのスタートアップとか、豚をうまく飼育するためのスタートアップとか、いろんな業種の方がおり、お話を聞くと皆それぞれ面白くてすごいなど、これが木村先生の言っていたワクワク感の一つかと思ったりしました。我々がこういったスタートアップの支援戦略を作るときも、何か仙人・修行僧のように苦しみながら作るのではなく、これを作ったら結構面白いよねというように、我々職員もワクワクしながら計画を作っていけないと、読んだ人にも何か苦痛の文章になってしまわないかと。もっと我々、県庁職員も楽しく作りましたというものを、根底では目指していきたいと考えております。

それぞれ皆様方からも貴重なご意見をいただいて確かにそうだというところと、スタートアップとかものづくりに限らず、県民性までご意見をいただいたような気がします。大学生になって東京に行ったときとか、関西に進学したときに、「あなたの出身の県の特徴は何？」と聞かれたとき、大体静岡県の出身者の答えは、富士山がとりあえずある、あとはみかんとお茶、と何十年も変わらないところがあり、そのときに静岡県の特徴はなんだっけ、というところを改めて振り返るといふ方々も多いということです。そういった意味で、東京と名古屋・大阪を結ぶところにあって、ほぼ何でもありますという地域ですから、そこを際立たせていくというところも一つ、我々の、自分を振り返るといふ面でもすごくいいのかなと思います。

いずれにしても、新聞を読みますと、スタートアップの記事やいわゆる物価高といった言葉はセットで、目にしないことはないものですから、1週間後にはガラッと新しい社会変化があるかもしれません。そういった意味で、常にそのリニューアル・ブラッシュアップを心がけて策定を進めてまいりますし、あとは実際にどういった具体策をやっていくかも、日々楽しくいろいろ意見を出しながら、いいものを作っていきたいと思っています。それで委員の皆様方にも、これは楽しそうな施策だと言ってもらえるよう我々も引き続き頑張っていきますので、よろしく願います。今日はありがとうございました。

○司会（餅原産業革新局長）

それではこれもちまして、第4回静岡県スタートアップ支援戦略策定委員会を終了いたします。また今後ともよろしく願います。ありがとうございました。